

令和5年度 全国学力・学習状況調査

調査結果の概要

吹田市教育委員会

はじめに.....	P 1
1. 調査の概要.....	P 1
2. 教科に関する調査結果	
(1)全体の概要.....	P 2
(2)各教科の概要.....	P 2
3. 児童生徒の質問紙調査結果	
(1)各教科に関する質問.....	P18
(2)学習等に関する質問.....	P19
4. 今後.....	P21
おわりに.....	P21

はじめに

本市の教育がめざすところは、小中一貫教育を基盤とし、次世代を担う子供たちに困難に打ち克つてくじけない、「知」「徳」「体」の調和がとれた「総合的人間力」を育成することです。

現行の学習指導要領では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を三つの柱とした、資質・能力が明確化されており、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

本市でも、各学校において、児童・生徒が「見方・考え方」を働かせ、学力向上につながるような授業づくり等、より具体的な指導方法の工夫改善を図っているところではありますが、調査結果の分析を通して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、各学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的なPDCAサイクルを機能させながら、児童・生徒の確かな学力を育むことにつなげてまいります。

1. 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 令和5年(2023年)4月18日(火)

(3) 調査対象 小学校6年生の児童・中学校3年生の生徒

(4) 本市受験者数 小学校 36校 (3,402名)
中学校 18校 (2,756名)

(5) 調査内容

ア. 学力に関する調査：小学校 (国語・算数)

中学校 (国語・数学、英語 ※「話すこと」調査含む)

イ. 学習状況に関する調査

児童・生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

ウ. 学校の取組に関する調査

学校を対象に学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関する質問調査

(6) 調査経緯

全国学力・学習状況調査は平成19年度～平成21年度に全員調査を行い、平成22年度・平成24年度・平成25年度は3割の抽出校及び希望校による調査でした。平成23年度は東日本大震災のため、中止となりました。平成26年度以降は再び全員調査となっていました。令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校措置により中止されました。今年度は、平成31年度から4年ぶりに英語が実施されています。

※平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施

※平成31年度(令和元年度)から中学校調査で英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。

※平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

2. 教科に関する調査結果

(1) 全体の概要

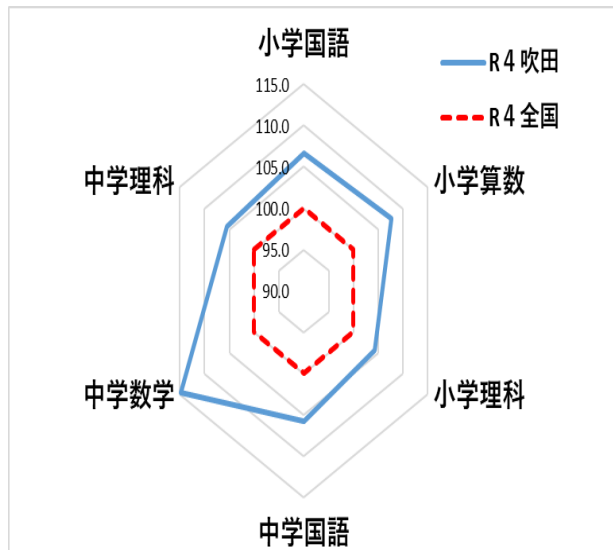
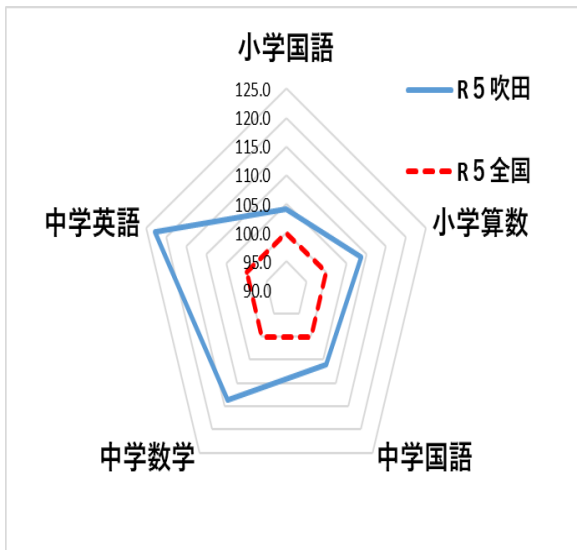
校種・教科別正答率と全国比值

【令和5年度】

	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学	中学英語
R5吹田	104.2	108.8	106.0	113.7	122.8
(平均正答率)	70	68	74	58	56
R5全国	100	100	100	100	100
(平均正答率)	67	63	70	51	46

【令和4年度】

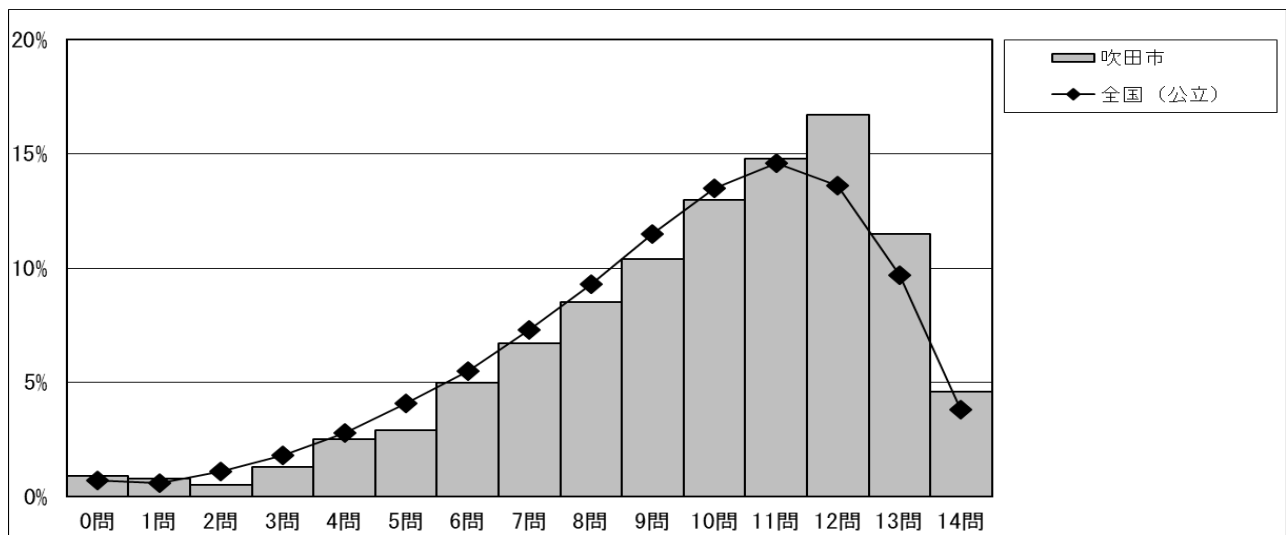
	小学国語	小学算数	小学理科	中学国語	中学数学	中学理科
R4吹田	106.7	107.6	104.3	105.8	114.8	105.5
(平均正答率)	70	68	66	73	59	52
R4全国	100	100	100	100	100	100
(平均正答率)	66	63	63	69.0	51	49



(2) 各教科の概要

【小学校・国語】

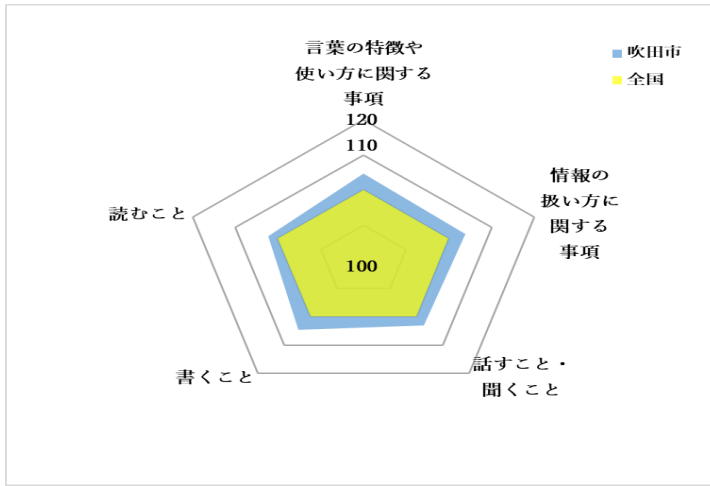
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
吹田市	3,398	9.7 / 14	70
大阪府(公立)	65,633	9.2 / 14	66
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.1

〈分類・区別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
全体		14	70	66	67.2	
学習指 導要領 の内容	知識及 び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	74.5	71.0	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	65.9	62.6	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力 判断力 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	3	74.7	70.9	72.6
		B 書くこと	1	27.9	24.2	26.7
		C 読むこと	3	72.8	69.2	71.2
評価の観点	知識・技能	7	72.1	68.6	68.9	
	思考・判断・表現	7	67.2	63.5	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	76.1	72.5	73.6	
	短答式	2	68.0	63.0	62.7	
	記述式	3	51.3	48.4	51.1	



※全国との関係を表す記号は、下の基準により示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係(正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	65.7	63.2	64.7	2.7	2.0	1.8	-
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	27.9	24.2	26.7	6.2	7.6	7.1	-
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	56.3	52.2	52.8	4.7	4.7	4.8	○
1三 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)	79.6	73.9	72.6	5.6	6.2	6.7	◎
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	93.6	92.6	93.1	1.4	1.1	1.0	-
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	81.7	78.5	79.8	2.9	2.1	2.0	-
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	91.5	88.7	90.0	1.8	1.4	1.2	-
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	70.5	65.7	67.4	2.0	1.6	1.4	○
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する	66.1	62.0	62.0	2.2	1.8	1.6	○
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	56.6	53.1	56.2	8.4	8.9	8.5	-
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	76.8	71.7	73.6	5.3	4.0	3.7	○
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	77.8	72.8	74.0	5.8	4.4	4.1	○
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	69.6	68.0	70.2	15.4	14.8	14.3	-
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	61.4	57.6	57.6	13.0	10.3	9.5	○

【課題の見られる設問について】

●設問番号

3 (二)

●設問の趣旨

寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く。

「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。」

●課題とその改善を図るために

吹田市(かっこ内は全国値)

- ・正答率 69.6% (70.2%)
- ・無解答率 15.4% (14.3%)

本設問は、正答率において全国値を下回り、無解答率は、全国値を上回った。このことから、国語科の学習では、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。」ことについて課題があると考えられる。

★改善を図るための具体的な方策

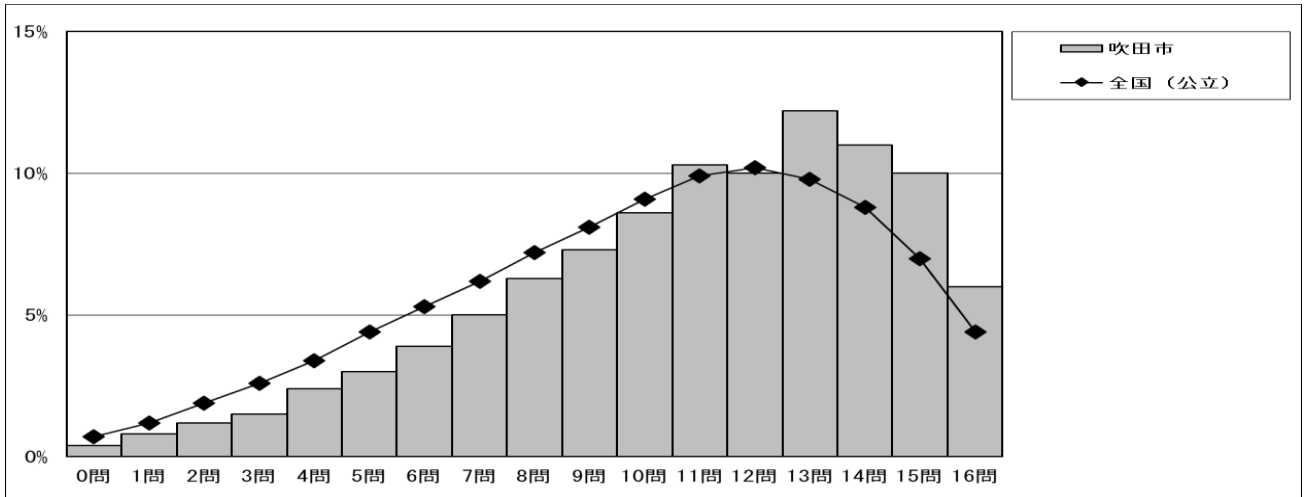
○話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめていく学習が必要である。例えば、インタビューの進め方について、友達と確認し合いながら吟味する活動を行う。また、インタビューを

する際には、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめていけるようにすることも大切である。

○相手が自分に伝えたいことや、自分が必要な情報等を明確にして聞くことが大切である。例えば、インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることなどを整理したり、答えを予想したりしておくといった学習活動が考えられる。話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめる力を身に付ける。

【小学校・算数】

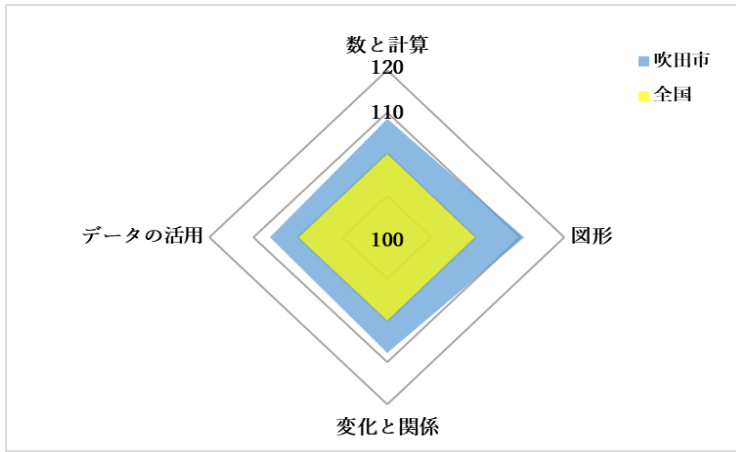
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



	児童数	平均正答数		平均正答率(%)
吹田市	3,402	10.9	/ 16	68
大阪府(公立)	65,697	9.9	/ 16	62
全国(公立)	964,350	10.0	/ 16	62.5

〈分類・区別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		16	68	62	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	73.0	66.8	67.3
	B 図形	4	53.5	48.4	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	76.3	70.8	70.9
	D データの活用	3	69.7	63.8	65.5
評価の観点	知識・技能	9	72.5	67.1	67.2
	思考・判断・表現	7	61.9	55.7	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	63.5	57.1	57.7
	短答式	7	79.3	74.7	74.7
	記述式	4	53.2	46.5	47.3



※全国との関係を表す記号は、下の基準により示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係(正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	95.2	93.4	93.5	0.8	1.0	0.8	—
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	91.3	88.3	88.5	1.0	1.0	1.0	○
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	61.8	55.2	55.5	2.3	3.4	3.4	◎
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する	85.3	81.2	80.8	1.1	1.2	1.2	○
2(1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	62.4	60.5	59.8	0.8	0.7	0.7	○
2(2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	90.4	87.3	87.2	2.2	3.0	2.9	○
2(3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	33.9	25.6	24.9	2.6	3.6	3.7	◎
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	27.5	20.5	20.8	3.2	3.6	4.0	◎
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれのようなことを表しているのかを選ぶ	76.1	68.7	70.3	1.2	1.5	1.4	◎
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	64.3	56.5	56.7	2.7	3.9	4.0	◎
3(3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	78.5	71.9	72.4	2.1	2.5	2.5	◎
3(4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	53.1	47.3	47.6	3.3	3.9	3.9	◎
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	56.8	46.3	46.0	2.4	2.5	2.4	◎
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	80.7	75.1	75.7	3.2	4.5	4.3	◎
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	59.3	53.7	56.2	11.5	14.3	13.8	○
4(4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	69.1	62.6	64.6	4.7	5.0	4.9	○

【課題の見られる設問について】

●設問番号

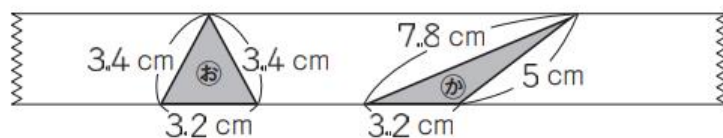
2 (4)

●設問の趣旨

テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。」

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

●課題とその改善を図るために

吹田市(かっこ内は全国値)

・正答率27.5%(20.8%) ・無解答率3.2%(4.0%)

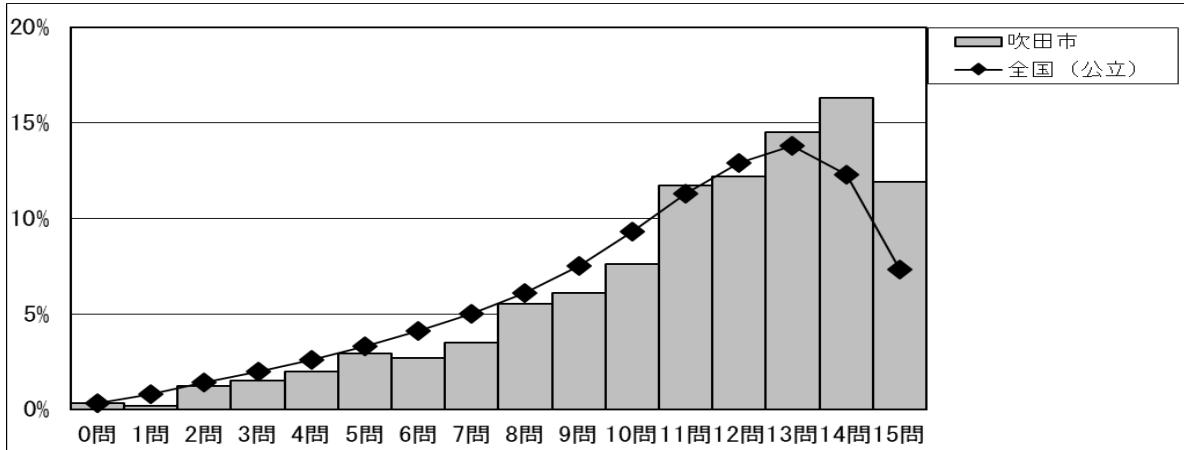
本設問は、全国、吹田市ともに最も正答率が低く、「論理的に考えを進め、説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする。」ことについて課題があると考えられる。

★改善を図るための具体的な方策

- 基本図形の面積の公式について、理解を深め、活用できるようにすることが大切であるため、単に公式を覚える習熟に力を入れるだけではなく、図や式、言葉等の決められた条件を選び出し、求め方を文に表す機会を増やす。
- ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由を授業や日常生活において説明する機会を設け、設問に求められる条件を見つける機会を積極的に設ける。
- 「AだからBとなる」のように、Aという理由及びBという結論を明確にした記述方法や、説明する定型文を身に付ける。

【中学校・国語】

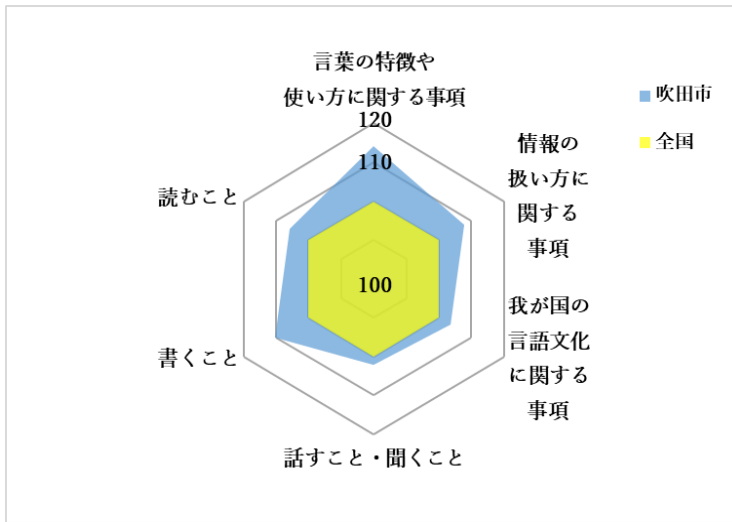
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



	生徒数	平均正答数		平均正答率(%)
吹田市	2,752	11.2	/ 15	74
大阪府(公立)	60,133	10.2	/ 15	68
全国(公立)	892,738	10.5	/ 15	70.0

〈分類・区別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
全体		15	74	68	69.8	
学習指導 要領の 内容	知識及 び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.1	68.9	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	68.4	61.6	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	77.3	72.3	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	83.9	79.5	82.2
		B 書くこと	2	69.8	62.1	63.2
		C 読むこと	4	67.4	60.8	63.7
評価の観点	知識・技能	7	74.7	68.3	69.4	
	思考・判断・表現	9	73.5	67.3	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	77.0	71.6	73.1	
	短答式	4	73.2	65.2	65.6	
	記述式	4	71.0	64.6	68.0	



※全国との関係を表す記号は、下の基準により示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係(正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	90.1	86.6	87.5	0.1	0.1	0.1	○
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	68.3	63.6	65.1	0.0	0.2	0.2	○
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	78.0	73.8	76.6	0.1	0.3	0.2	—
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	83.6	78.1	82.5	10.0	13.9	10.8	—
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	93.6	90.3	91.1	0.0	0.2	0.2	○
2二	二つの文章に共通する表現の効果の説明したものとして適切なものを選択する	66.7	59.4	63.0	0.3	0.5	0.4	○
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	79.5	72.9	74.2	0.1	0.3	0.3	◎
2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	68.5	63.5	67.5	2.9	4.9	3.9	—
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	62.9	54.7	54.3	0.5	0.5	0.6	◎
3二	漢字を書く(おし量って)	60.6	47.6	43.9	6.9	10.3	10.7	◎
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	68.5	59.7	61.8	2.1	2.3	2.1	◎
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	76.7	69.5	72.1	9.4	11.4	10.2	○
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	85.1	82.0	82.5	2.9	4.5	3.6	○
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	78.4	71.4	74.1	3.5	5.8	4.8	○
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこかのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	55.1	47.4	50.0	16.0	22.5	20.7	◎

【課題の見られる設問について】

●設問番号

2 (4)

●設問の趣旨

自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。

「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるかどうかをみる。」

●課題とその改善を図るために

吹田市

- ・正答率68.5%
(67.5%)
- ・無解答率2.9%
(3.9%)

全ての問題の正答率は全国値を上回っているが、本設問は、正答率において最も全国値と数値が近いものであった。国語科の学習では、「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりする。」ことに課題があると考えられる。

	イ	ア	
			<p style="text-align: center;">選んだ文章</p> <p style="text-align: center;">① [A] ② [B] ③ 両方</p> <p style="font-size: small;">← 選んだ文章の番号を塗りつぶしなさい。</p>

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

四 中山さんは、[A]や[B]の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、これからどのように本を読みたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア [A]か[B]、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。

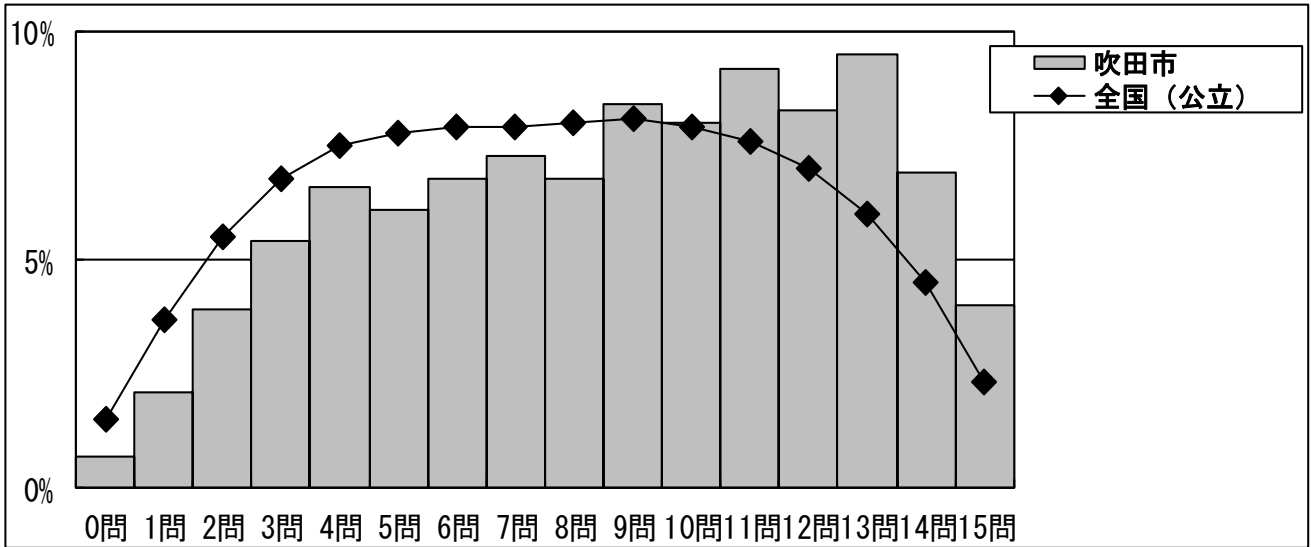
イ アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読みたいかを具体的に書きなさい。

★改善を図るための具体的な方策

○文章に書かれている内容を理解することにとどまらず、自分が持っている知識や経験と結び付けることで、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。そのために、生徒が自分で課題を設定し、その解決のために文章を読む学習活動の中で、文章を読んで理解したことと自分の考えや経験を比較したり、関連付けたりしながら解決策や改善策を考える場面を設定するなど、主体的に文章を読むことができる力を身に付ける。

【中学校・数学】

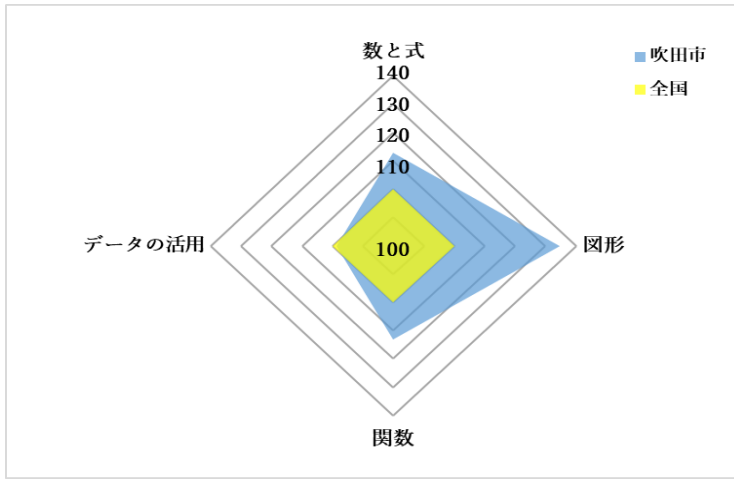
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



	生徒数	平均正答数		平均正答率(%)
吹田市	2,753	8.7	/ 15	58
大阪府(公立)	60,213	7.5	/ 15	50
全国(公立)	893,114	7.6	/ 15	51.0

〈分類・区別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			58	50	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	71.1	63.2	63.0
	B 図形	3	44.7	33.4	33.2
	C 関数	4	58.0	49.5	51.2
	D データの活用	3	47.9	45.0	48.5
評価の観点	知識・技能	10	62.1	55.1	55.7
	思考・判断・表現	5	49.0	39.6	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	54.2	45.8	45.3
	短答式	6	67.3	61.3	62.6
	記述式	5	49.0	39.6	41.6



※全国との関係を表す記号は、下の基準により示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係(正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	54.2	48.3	46.1	0.0	0.1	0.1	◎
2	$12(x/4+y/6)$ を計算する	91.0	81.9	80.5	1.5	4.3	4.0	◎
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	42.2	30.5	30.4	0.6	0.7	0.8	◎
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	52.6	44.2	42.8	0.3	0.5	0.5	◎
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	41.3	43.6	46.1	10.5	12.8	11.0	△
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	91.8	88.2	88.9	1.3	3.3	2.4	○
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	68.7	57.6	58.8	8.7	13.5	10.6	◎
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	49.6	40.0	40.9	20.2	28.0	24.7	◎
7(1)	1961年~1975年の四分位範囲を求める	69.3	63.0	65.7	5.0	6.8	5.6	○
7(2)	「2006年~2020年の黄葉日は、1991年~2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	33.2	28.2	33.6	20.0	27.3	22.8	-
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	64.3	54.8	57.5	8.6	9.7	8.6	◎
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	68.0	60.1	61.7	1.0	1.2	1.1	◎
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	47.2	38.9	42.8	14.1	14.7	13.2	○
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	45.9	33.2	32.1	18.3	25.9	24.7	◎
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	45.9	36.5	37.0	10.6	15.5	14.2	◎

【課題の見られる設問について】

●設問番号

5

●設問の趣旨

女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める。

「不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。」

- ・情報を分類したり整理したりすること
- ・累積度数の意味を理解していること

5 ある市の中学生の水泳大会における女子50m自由形に出場した40人の記録を調べました。調べた結果を、次の累積度数を含めた度数分布表に整理します。

女子50m自由形の記録

階級(秒)	度数(人)	累積度数(人)
以上 未満 27.00 ~ 28.00	3	<input type="text"/>
28.00 ~ 29.00	2	<input type="text"/>
29.00 ~ 30.00	4	<input type="text" value="ア"/>
30.00 ~ 31.00	11	<input type="text"/>
31.00 ~ 32.00	8	<input type="text"/>
32.00 ~ 33.00	6	<input type="text"/>
33.00 ~ 34.00	3	<input type="text"/>
34.00 ~ 35.00	3	<input type="text"/>
合計	40	

女子50m自由形の記録の には最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数が入ります。 に入る値を求めなさい。

●課題とその改善を図るために

(かっこ内は全国値)

・正答率41.3%(46.1%) ・無解答率10.5%(11.0%)

数学科全体の平均正答率が全国を6.6%上回る中、本設問は、正答率において全国値を5%下回った。また、同じく「データの活用」に関する設問7(2)「箱ひげ図」においても全国の正答率を下回っており、同様の傾向が見られることから、数学科の学習では、「データの活用に係る用語の理解や複数の集団のデータについて分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。」ことについて、課題があると考えられる。

★改善を図るための具体的な方策

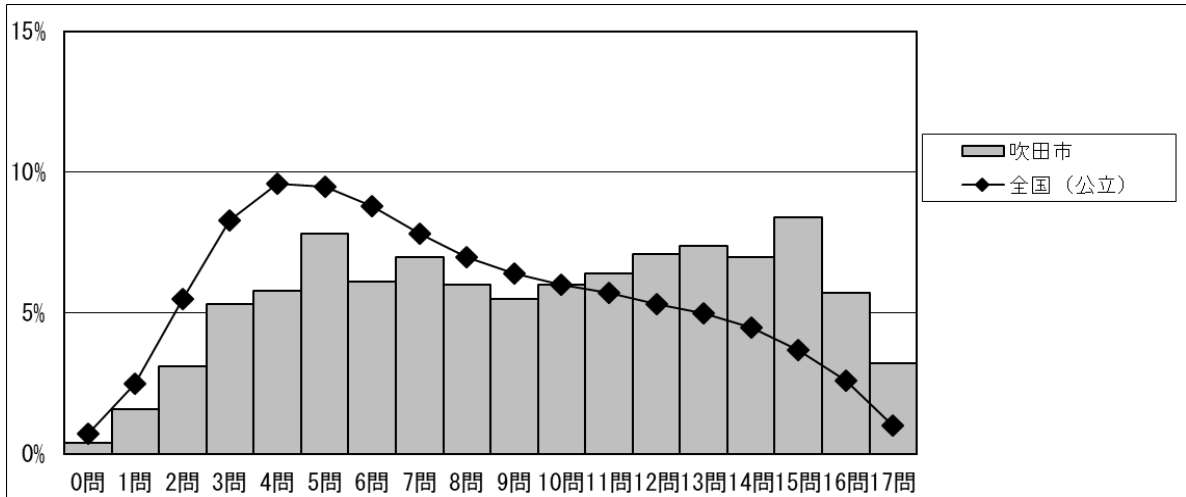
○度数分布表や代表値などを用いて、データの分布の傾向を捉える活動を重視する。

代表値や四分位範囲、累積度数を用いて、分布の傾向を読み取ることができるよう、データの傾向を捉える活動を重視することが大切である。

○データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。

【中学校・英語】 ※「話すこと」の分析なし

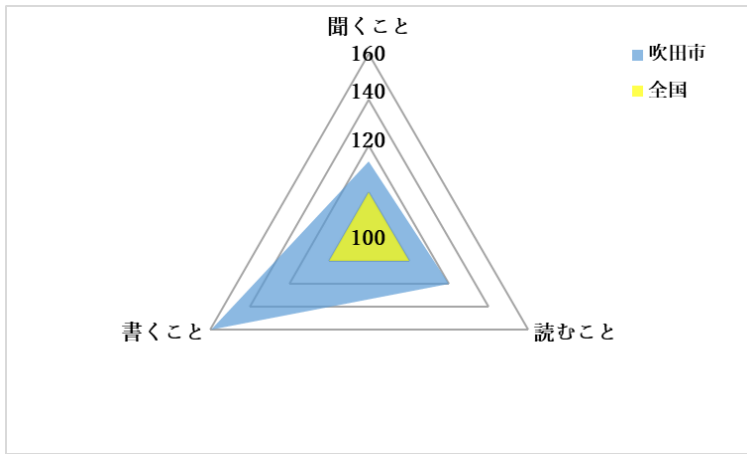
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



	生徒数	平均正答数		平均正答率(%)
吹田市	2,756	9.5	/ 17	56
大阪府(公立)	60,342	7.7	/ 17	45
全国(公立)	893,528	7.7	/ 17	45.6

〈分類・区別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		17	56	45	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	66.1	57.4	58.4
	(2) 読むこと	6	61.6	50.2	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]	0			
	(4) 話すこと[発表]	0			
	(5) 書くこと	5	37.3	24.8	23.4
評価の観点	知識・技能	9	63.0	51.2	51.5
	思考・判断・表現	8	48.2	38.7	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	63.8	53.8	54.8
	短答式	3	46.9	31.7	30.1
	記述式	2	22.8	14.6	13.5



※全国との関係を表す記号は、下の基準により示されている。

全国の正答率を5%以上上回る	◎
全国の正答率を2~4.9%上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2%未満)	—
全国の正答率を2~4.9%下回る	△
全国の正答率を5%以上下回る	×

〈問題別集計結果〉

問題番号	問題の概要	正答率(%)			無解答率(%)			全国との関係(正答率)
		吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	吹田市	大阪府(公立)	全国(公立)	
1(1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	85.6	77.7	79.0	0.0	0.2	0.1	◎
1(2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	71.7	62.0	64.4	0.0	0.2	0.2	◎
1(3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	58.3	49.0	49.8	0.1	0.2	0.2	◎
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	68.9	61.9	61.1	0.1	0.2	0.2	◎
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	47.5	40.9	41.2	0.3	0.3	0.2	◎
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	64.3	52.9	54.8	0.3	0.5	0.4	◎
5(1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	64.6	54.4	56.0	0.4	0.3	0.3	◎
5(2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	75.3	62.9	64.5	0.2	0.4	0.3	◎
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	48.5	35.5	35.9	0.2	0.3	0.3	◎
7(1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	70.8	59.5	59.8	0.3	0.4	0.3	◎
7(2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	42.0	34.7	34.7	0.7	0.8	0.7	◎
8(1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	68.5	54.2	56.1	0.3	0.8	0.8	◎
8(2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	30.8	20.8	19.5	22.3	32.4	29.3	◎
9(1)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	59.7	42.3	40.4	4.9	8.5	6.6	◎
9(1)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	37.5	23.8	20.9	7.1	12.2	10.9	◎
9(2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	43.6	28.9	29.0	18.9	26.3	24.5	◎
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	14.8	8.3	7.4	18.2	24.3	21.4	◎

【課題の見られる設問について】

●設問番号

5 (1)

●設問の趣旨 ※学習指導要領における領域「読むこと」

ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する。

「ある市における海外からの観光客と海外に行く観光客の人数の推移を描写する英文から、情報を正確に読み取ることができるかどうかを見る。」

●課題とその改善を図るために

吹田市(かっこ内は全国値)

- ・正答率:64.6% (56.0%)
- ・無解答率:0.4% (0.3%)

全ての問題の正答率は全国値を上回っているが、無解答率に関しては、本問題は全国値を上回る。また、全国値と同等の結果である問題を分析すると、語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を活用し、正確な情報を読み取り、まとまりのある文章の概要を捉え、文と文との関係を正確に読み取る技能に課題があると考えられる。

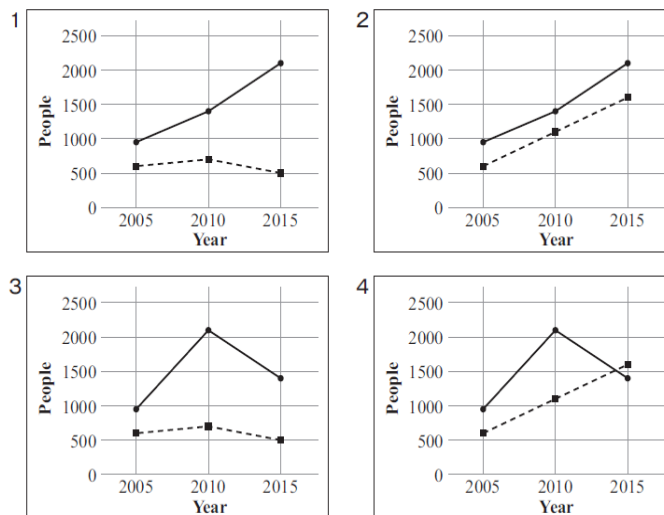
★改善を図るための具体的な方策

- 語彙等の習得には、生徒が読みたくなる、興味を持つような題材を提示し、短い文章から、徐々に長い文章に慣れさせていく。
- 日常的な話題や社会的な話題に関する文章を読み、「イラストや写真、図表」など、社会生活で使われる様々な形式の視覚情報等も参考にしつつ、書き手が伝えようとしている「要点」を把握する活動を取り入れる。
- 「概要を捉える」とは、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味等、特定の部分にのみとらわれたりすることなく、文章全体を読み通し、また的確に必要な情報を取り出し、どの情報が最も重要であるかを判断することが大切である。

(1) 次の英文を読んで、その内容を最も適切に表しているグラフを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

In 2005, about 1,000 tourists from abroad came to Minami City. During the next ten years, the number went up. Over 2,000 tourists came to Minami City in 2015. The number of tourists from Minami City to other countries didn't go up.

— : Tourists from abroad to Minami City
 ---- : Tourists from Minami City to other countries



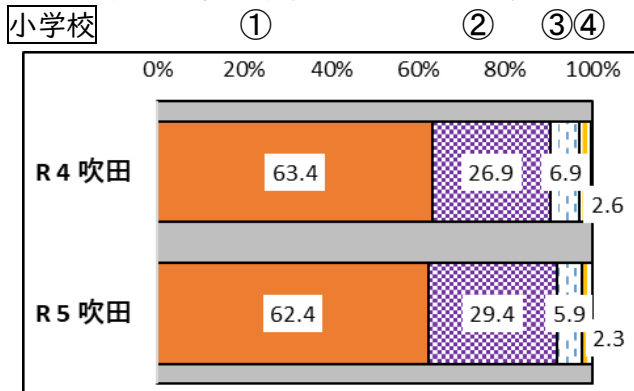
3. 児童・生徒質問用紙

(1) 各教科に関する質問

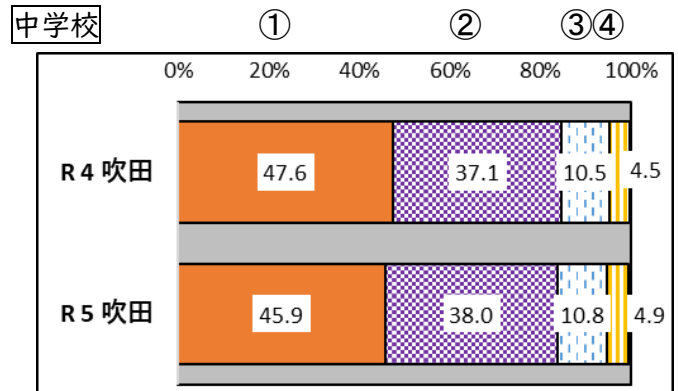
〈凡例〉 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

【国語】

Q 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



R4 全国	65.5	26.3	5.8	2.4
R5 全国	64.4	28.4	5.2	1.8



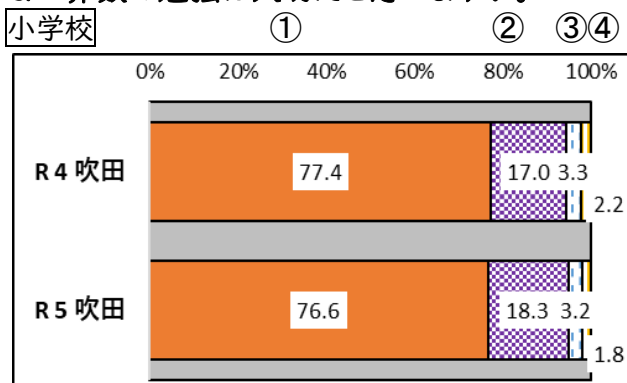
R4 全国	55.6	34.1	7.6	2.5
R5 全国	52.3	36.4	8.3	2.7

【その他】

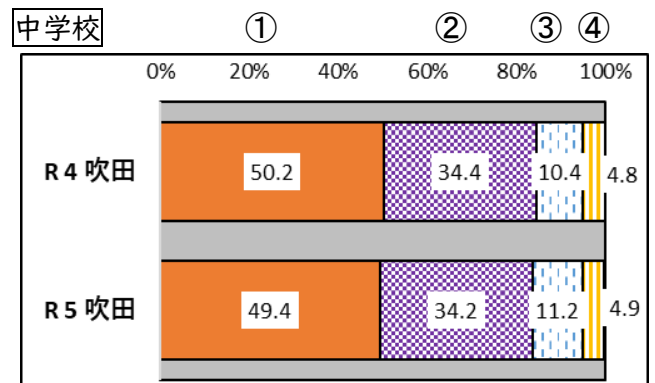
- ・「国語の勉強は好きですか。」に対する肯定的回答率は小学校では6割を超えているが、中学校では6割を下回っている。
- ・小学校「授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのか着目していますか。」、中学校「授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の人情の変化などについて、描写を基にとらえていますか。」のいずれも「読むこと」に関しては、肯定的回答率が8割を超えている。

【算数・数学】

Q 算数の勉強は大切だと思いますか。



R4 全国	76.6	17.6	3.7	2.0
R5 全国	75.3	18.9	3.7	2.0



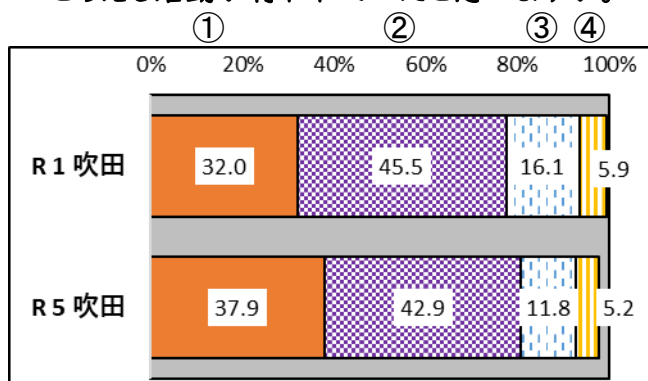
R4 全国	52.1	34.5	9.8	3.4
R5 全国	49.8	35.2	10.5	4.2

【その他】

- ・「算数・数学の授業は好きですか。」に対する肯定的回答率は小学校では6割を超えているが、中学校では6割を下回っている。(全国値の割合も6割を下回っている。)
- ・「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。」に対する肯定的回答率は、小学校では9割を超え、中学校では7割を超えている。(いずれも全国値の割合と同等。)

【中学校・英語】

Q 1,2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



R1 全国	35.7	45.5	14.2	4.4
R5 全国	34.9	45.4	12.7	4.6

※R1は旧学習指導要領に則っている。

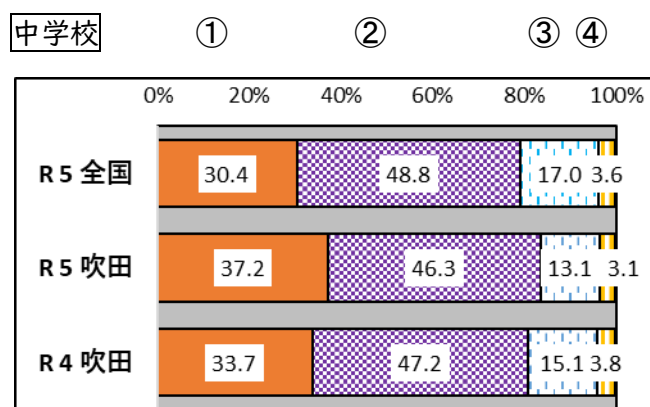
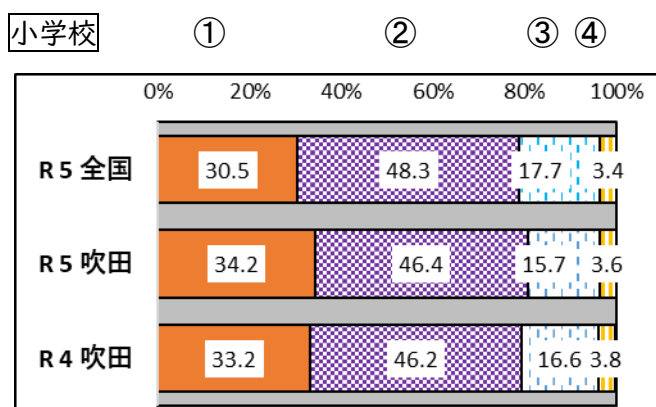
【その他】

- ・「英語の勉強は好きですか」に対する質問の肯定的回答率は、6割を下回っているが、「英語の勉強は大切だと思いますか」の肯定的回答率は、9割を超え、他の教科よりも高い数値である。
- ・「1,2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をするのではなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。」に対する肯定的回答率は、6割を超えている。→現行学習指導要領において、「話す(発表)」が「暗唱ではなく即興」という目標が設定されている。

(2) 学習などに関する質問

●主体的・対話的で深い学び

Q 小学校では5年生までに受けた授業、中学校では1,2年生までに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



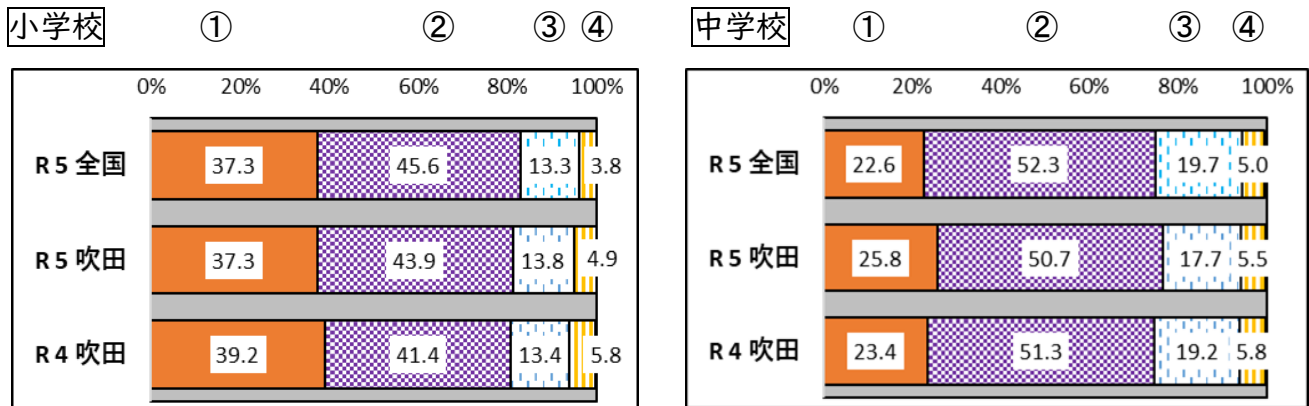
- ・他の質問「5年生[1,2年生のとき]までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対する肯定的回答率は、小学校・中学校ともに、全国値を上回っている。



各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されている。

●個別最適な学び(個に応じた指導)

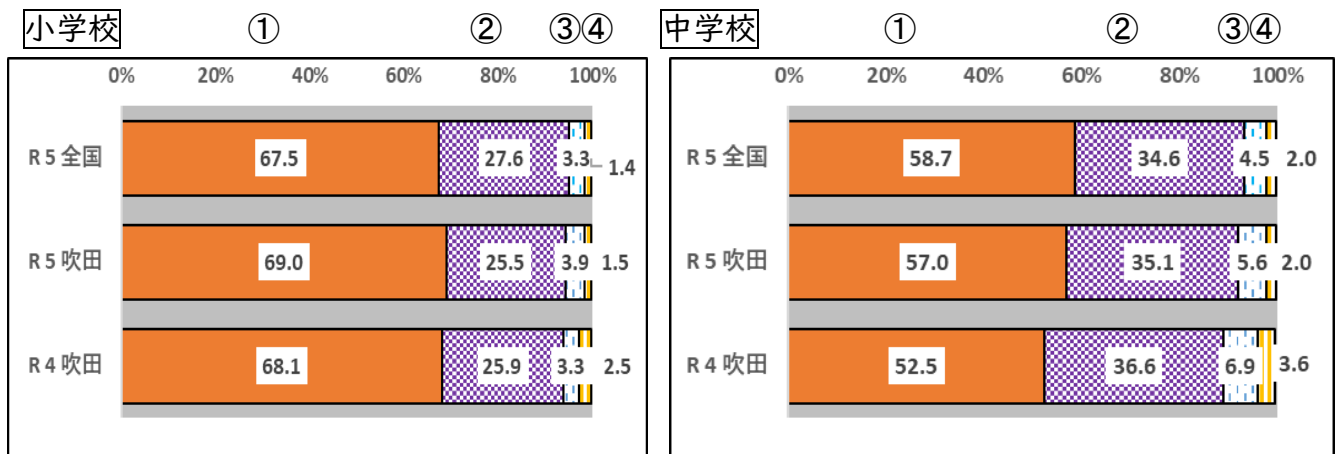
Q 小学校では5年生までに受けた授業、中学校では1,2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか。



・本市の令和4年度と比べて、令和5年度の肯定的回答率は小学校・中学校とも上昇している。全国値と比べると、小学校では1.7ポイント下回り、中学校では1.6ポイント上回っている。他の質問の「授業の内容はよくわかりますか。」に対する肯定的回答率は、小学校の算数、中学校の数学と英語では国語より上回っている。これらのことから、習熟度別授業を実施している算数や、数学、英語では、特に自分にあった授業の進度、教材や学習時間だと感じている児童・生徒が多いことがわかる。

●ICTを活用した学習状況

Q 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

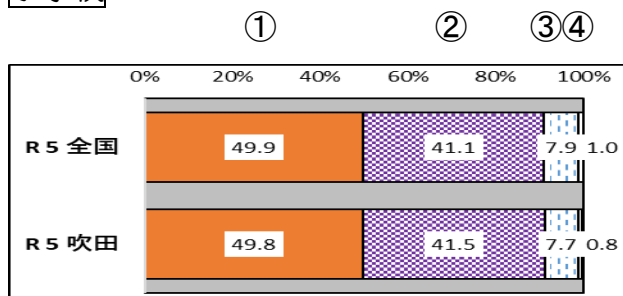


・他の質問「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」に対する回答は、小学校では「週3回」の回答が最も多く、次いで「ほぼ毎日」と回答している。中学校では「週1回」の回答が最も多く、次いで「週3回」と回答していました。小学校では使用頻度が全校値とほぼ同等の数値であるが、使用頻度の高さから「勉強の役に立つ」という実感がある児童が多いことがわかる。また、中学校では、小学校と比べて、全国値も低くなっている。
 ・本市の中学校と、全国における使用頻度の割合を比べると「ほぼ毎日」「週3回」の合わせた回答率より、20.7%下回っている。

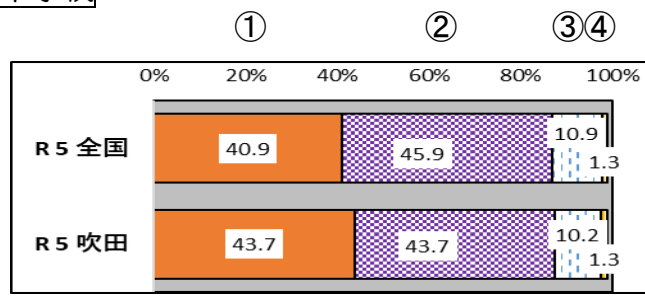
●児童生徒の幸福感に関する状況

Q 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

小学校



中学校



〈凡例〉①よくある ②ときどきある ③あまりない ④全くない

- ・今年度から新設された質問で、小学校の肯定的回答率は全国値と比べて、0.3ポイント、中学校の肯定的回答率は0.6ポイント上回っている。2023年3月、文部科学省から「次期教育振興基本計画について(答申)」において、ウェルビーイングの向上が掲げられた。ウェルビーイングとは、「良好な状態」「心身ともに健康で、持続的な幸福な状態」のことで、子どもたちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が求められている。
- ・ウェルビーイングの向上には、子どもたちが幸福や生きがいを感じられる学校づくりが大切であると考えます。

4. 今後

- ・小中学校とも全教科の平均正答率は、全国値を上回っているが、比較して自分の考えをまとめたり、説明することに課題がある。学校の授業において、情報を正確にとらえ、それに対して児童・生徒が自分の考えをまとめ、的確にそれを説明できる授業づくりが必要となる。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか。」という自己肯定感への肯定的回答率は、令和4年度より、小学校・中学校でも7ポイント以上上昇している。これらの質問や新設されたウェルビーイングに関する質問を分析し、今後の動向に注視していく。

おわりに

現行の学習指導要領が実施され、小学校で4年目、中学校では3年目となり、本市では学習の基盤となる資質・能力の育成のため、各教科において、「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりを進めてまいりました。また、各学校においては、全国学力・学習状況調査で明らかになった課題を克服できるよう、校内の「学力向上委員会」等を中心に教員の指導力向上に向けた研修等をはじめ、日々の授業の工夫改善に努めています。

予測困難な社会を生き抜くための「生きる力」の「知」の側面からとらえた「確かな学力」とは、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたものです。その「確かな学力」を育成するためには、子どもたちの学習意欲を高める授業づくりが重要です。

本市教育委員会としましては、子どもたちの「確かな学力」育成のため、各学校における研究や実践等を支援し、学力向上への取組をさらに進め、また「総合的人間力の育成」を目指して、調査結果の課題についての情報を学校・家庭・地域で共有し、連携していけるよう支援してまいります。

令和5年(2023年)11月